

「令和2年度八戸市民大学講座」の開催中止について

昭和45年度から開設し、今年度50周年を迎える八戸市民大学講座につきまして、新型コロナウイルス感染拡大の状況を踏まえ、開催について検討を重ねた結果、受講生の安全と感染拡大防止の観点から、令和2年度の全講座を中止することに決定しましたので報告いたします。

記

- 1. 事業名** 「令和2年度八戸市民大学講座」
- 2. 目的** 様々な分野で活躍する講師を迎えて講演会を開催することで、八戸市民の生涯学習の一環とすること。
- 3. 日時** 令和2年5月～11月 18:30～20:00他
- 4. 中止の理由**
 - ・新型コロナウイルス感染症が収束する見通しが立たないため。
 - ・不特定多数が集まるイベントであり、会場内では「3つの密」を避けることが難しいため。
 - ・関東、関西方面から招聘する講師が多く、状況次第では来八できなくなる可能性があるため。

(参考) 令和元年度

- ・18講義 (令和元年5月15日～10月30日)
- ・会場 八戸市公会堂他
- ・受講者数 7,983人 (男 2,651人 女 5,332人)
- ・修了者数 123人 (男 53人 女 70人)

縄文学習館の休館について

1 休館となる施設

八戸市縄文学習館（是川縄文館分館）

2 施設の概要

八戸市縄文学習館は、平成6年に史跡是川石器時代遺跡及び風張遺跡の展示解説及び体験学習施設として開館した。平成23年の是川縄文館開館に伴い、展示内容を更新し、是川遺跡とその保存に尽力された泉山氏に関する展示のほか、是川遺跡の概要や学史的背景を紹介する展示、また埋蔵文化財センターの役割について解説する展示を設け是川縄文館の分館としてリニューアルオープンした。入館・観覧は無料。

3 休館の期間

令和2年7月1日(水)より令和7年度末まで

※工事の進捗により変更となる可能性あり

4 休館する理由

史跡是川石器時代遺跡第1期整備事業に伴い、施設周辺が工事範囲となり、安全安心な来館及び観覧環境の確保が困難となるため。

5 休館後の再開

同館は、史跡是川石器時代遺跡の縄文時代晩期の集落である中居遺跡の様子を詳細に伝える遺跡ガイダンス施設として再整備し、整備が完了した遺跡とともに令和8年度に開館する予定。

6 周知方法

- ホームページでの周知
- 市内小中学校への文書発送
- 記者クラブへの周知

令和2年度夏季企画展概要

泉山兄弟と是川遺跡

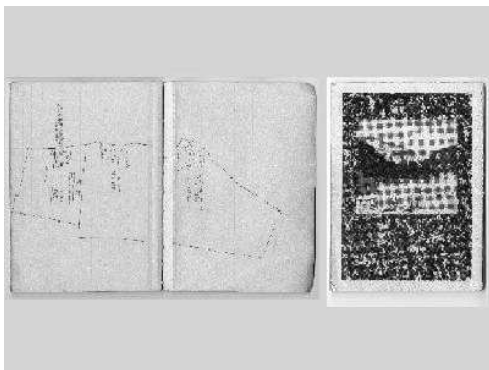
イエや水辺の作業場、たくさんの墓、マツリノ場、そして鮮やかな赤色の漆製品や、弓・ヤスといった狩猟・漁労具などが見つかった是川遺跡は、縄文時代を考えるうえで重要な遺跡です。

是川遺跡が世に広く知られるようになったのは、地元の泉山兄弟の発掘がきっかけでした。2020年の今年、泉山兄弟の発掘から100周年にあたります。本展覧会ではこれを記念して、泉山兄弟を中心に是川遺跡にかかわりの深い人びとをとりあげ、これまでの遺跡の調査や活用の歴史を振り返ります。

○ 会期

令和2年7月18日（土）～令和2年9月6日（日）

○ 展示品のみどころ



①泉山斐次郎氏 ノート 泉山コレクション

是川遺跡発掘のきっかけを作った、泉山斐次郎氏の直筆ノート。自らが行った発掘調査の地点や層位、遺物の出土位置などが記されている。

昭和初期の是川遺跡の発掘の様子を知ることができる、貴重な資料のひとつ。

②注口土器（八戸市是川中居遺跡出土）

重要文化財・泉山コレクション

縄文時代晩期 大きさ：9.4cm

注ぎ口がついた縄文土器。土器表面は光を反射するほど丁寧に磨かれて、黒色処理がなされている。1964年、東京オリンピックと併催の「日本古美術展」にも展示された、是川遺跡出土品中の優品のひとつ。



③飾り太刀（八戸市是川中居遺跡出土）

重要文化財・泉山コレクション

縄文時代晩期 大きさ：約67.0cm

刀のような形をした木製品。表面には赤色の漆が塗られており、両側に装飾用と考えられる小孔が連なっている。縄文時代の木工技術、漆芸技術の高さを示すこの資料は、発見当時驚きをもって紹介された。



「青少年のための科学の祭典 2020」八戸大会の開催中止について

「青少年のための科学の祭典」八戸大会は、平成8年度から継続開催し今年で25回目となる予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、今年度の開催を中止することとしましたので報告いたします。

記

1. 事業名 「青少年のための科学の祭典 2020」八戸大会
主催 「青少年のための科学の祭典2020」八戸大会実行委員会
公益財団法人日本科学技術振興財団
八戸市、八戸市教育委員会
2. ねらい 多くの青少年に、科学のおもしろさや不思議さを体験してもらい、科学に対する興味・関心を高める。
3. 日時 令和2年8月8日(土) 9:45 ~ 16:00
9日(日) 9:00 ~ 15:30
4. 中止の理由
 - ・新型コロナウイルス感染症が収束する見通しが立たないため。
 - ・不特定多数が集まるイベントであり、ブースでは「3つの密」を避けることが難しいため。
 - ・冷房設備が整っていない会場でマスクを着用して活動した場合、例年以上に熱中症のリスクが高まると考えられるため。
 - ・学校の夏季休業が短縮となった場合、演示講師の準備が十分に行えない可能性があるため。

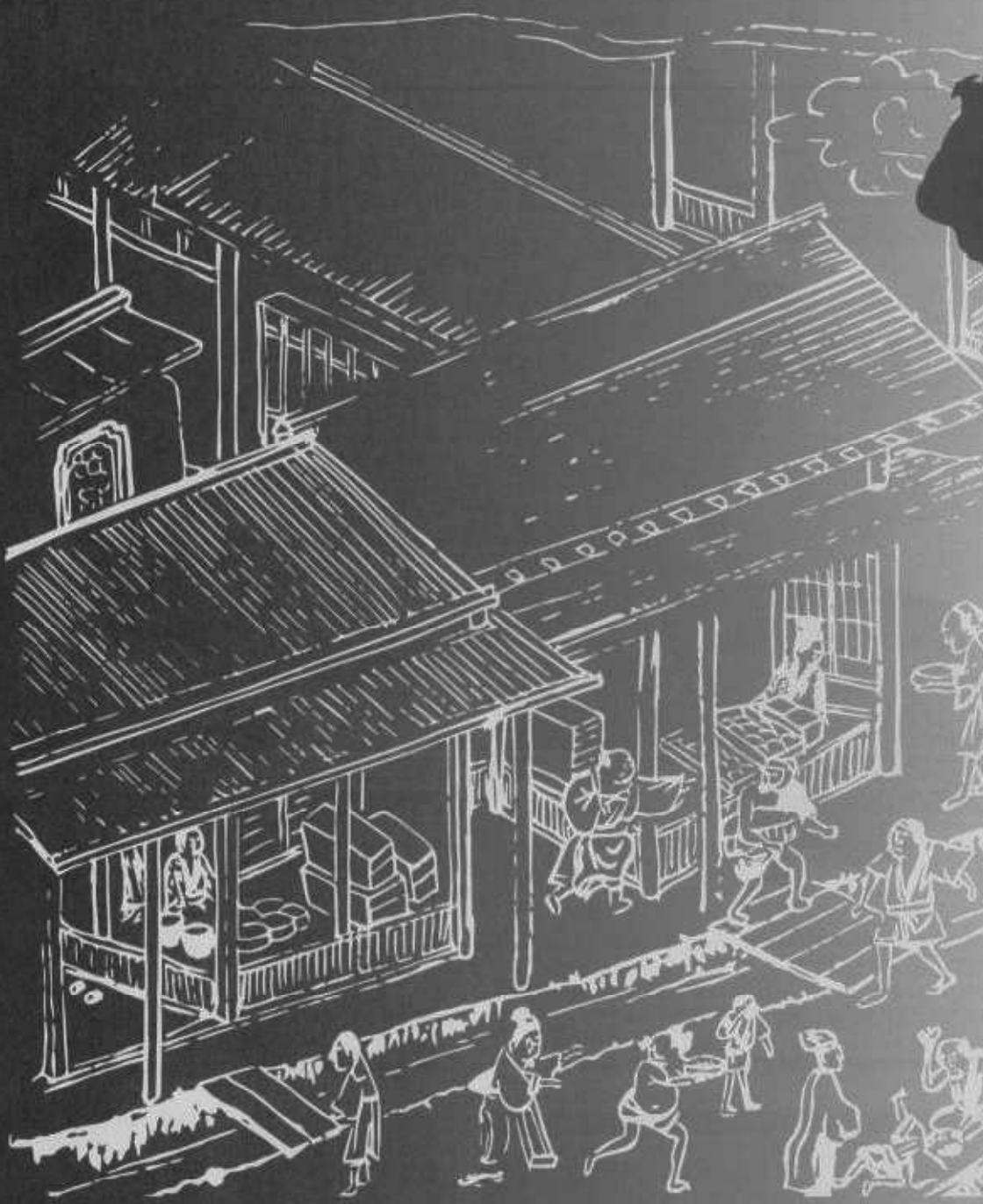
夏季特別展

飢渴の郷土史

八戸ヶガジ録

※今後の状況により、内容等が変更となる場合がございます。 背景：西町歴史文書「卯辰飢饉物語」挿絵

國に九年の蓄へ無きを不足といひ、六年の蓄へ無きを危といひ、三年の蓄へ無きを國その國にあらずといふなり（禮記）



令和2年(2020) 7月4日土 ~ 8月23日日

八戸市博物館

〒039-1166 青森県八戸市大字根城字東構 35-1
Tel: 0178-44-8111 Fax: 0178-24-4557

- [開館時間] 9:00 ~ 17:00 (入館 16:30 まで)
- [休館日] 7月13日・20日・27日、8月11日・17日
- [入館料] 一般 300円 (180円)
高・大 150円 (80円)
小・中 50円 (30円)
- * () 内は20名以上の団体料金
- * 市内の小・中学生は無料
- * 市内在住65才以上の方は半額
- * 障がい者手帳等をお持ちの方と同伴者1名は半額





さかつ きょうど し 飢渴の郷土史をふりかえる

八戸地域は、度重なる冷害等の自然災害から、古くは凶作や飢饉に見舞われてきました。当地域では「飢饉」のことを「ケガジ(けがち)」といい、江戸時代においては、元禄・宝暦・天明・天保の飢饉(東北四大飢饉)のほか、冷害と飢饉による「猪ケガジ」と呼ばれる特殊な危機にも直面しています。

厳しい風土の中で豊作と凶作を何度も繰り返すケガジを経験してきた名も無き先人たちの姿は、藩の記録や寺社の供養塔、領民の私記などから見て取ることができます。

本展では、飢饉に関する郷土資料から、近世八戸のケガジについて取り上げます。郷土の歴史と先人たちの経験から学び、現代を生きる我々自身を省みる契機となれば幸いです。

【展示構成】	序章	八戸の風土
	第一章	飢渴の有り様 (ありよう)
	第二章	飢渴の有り様 (ありさま)
	第三章	命をつなぐために
	第四章	できることは何か

■ 特別展ギャラリートーク (展示解説)

日時：会期中毎週土曜日
①10時～ ②14時～

*申込不要/要入館料
*定員5名程度
(当日先着順)

その生涯で猪ケガジ・宝暦飢饉・天明飢饉を経験した下級藩士・築田虎之助がスペシャルサポーターを務めます。

- ①北尾恒寿斎『春季耕作図』(部分)
- ②『救荒便覧』より「あまごころ」
- ③しめいも(しばれいも)
- ④建部清庵『民間備荒録』挿絵
- ⑤須藤家文書『御家中疫病二面病死之人数書留書』
- ⑥『飢饉卯辰集』
- ⑦『天明凶饉録』
- ⑧西町厚文書『卯辰飢饉物語』
- ⑨西町厚文書『天明三年日記』
- *①-③・⑥-⑧当館蔵
- ④⑤八戸市立図書館蔵



◆◆◆ かてもの探し in 根城薬草園 ◆◆◆

博物館に隣接する史跡根城の広場には、薬草園のほか、様々な植物があります。本展会期中、広場を散策して対象の“かてもの(救荒植物)”を撮影またはスケッチすると、博物館受付にてオリジナル記念品をプレゼントいたします。

- *実施期間：会期中の間館日(9:00～17:00) *休館日は対応できません。
- *プレゼント引換期間：会期中～2020年8月31日まで(無くなり次第終了)
- *博物館受付にて撮影した画像またはスケッチを御提示下さい。
- *対象となる“かてもの”は、館内掲示及びホームページで御確認いただけます。
- *スケッチの用紙は館内で配布しています。所定の用紙をお使い下さい。
- *記念品の引換を後日行う場合、撮影年月日の確認をさせていただきます。
- *史跡公園内・薬草園の植物の採取は厳禁です。御注意下さい。



如何程富貴自在の身なりニモ、寿命は金銀にて求めらるゝ事にあらず

八戸市博物館

〒039-1166 青森県八戸市大字根城字東構 35-1
Tel: 0178-44-8111 Fax: 0178-24-4557

【開館時間】 9:00～17:00 (入館 16:30 まで)
【休館日】 7月13日・20日・27日、8月11日・17日
【入館料】 一般 300円(180円)
高・大 150円(80円)
小・中 50円(30円)
*()内は20名以上の団体料金
*市内の小・中学生は無料
*市内在住65才以上の方は半額
*絵がたい者手製等をお持ちの方と同伴者1名は半額



南郷歴史民俗資料館開館40周年記念特別展

「現代刀匠展 —伝統技術の粋—」

かつて武器として存在した日本刀は、現代においては伝統工芸品、あるいは美術作品として評価され、国内のみならず海外からも注目されています。そして、明治以降に作られた日本刀は「現代刀」と呼ばれ、伝統的な技術を受け継いだ匠たちにより、今なお新たな日本刀が生み出されています。

本展では、現代刀匠が手掛けた作品の展示から、日本刀の歴史と伝統について紹介し、作品の美術的価値を味わうとともに、受け継がれた匠の技にも目を向け、日本固有の歴史と文化への関心を高める契機とします。

○ 会期

令和2年7月11日(土)～同年9月6日(日) (休館日を除く開館日数 51日間)

○ 主な展示構成

- ① 受け継がれる伝統の技：現代刀匠の作品(20振予定)及びプロフィール紹介
- ② 伝統を支える玉鋼：作刀に欠かせない玉鋼の紹介
- ③ 郷土刀の魅力：郷土八戸の刀工 柏木源吉などを紹介
- ④ 昭和の悲劇「赤羽刀」：戦中戦後の刀について紹介
- ⑤ 映像資料：作刀記録映画等の上映



刀匠 宮城典真氏 作刀風景



刀 銘「還暦記念宮城典真作」



短刀 銘「陸中和吉」